

# 第3章

## 生涯学習を取り巻く環境

### 第1節 国・県の動向

- 1 国の動向
- 2 県の動向

### 第2節 いわき市の現状

- 1 いわき市の社会状況
- 2 いわき市の生涯学習の現状

## 第3章 生涯学習を取り巻く環境

### 第1節 国・県の動向

#### 1 国の動向

昭和22年の教育基本法の制定から60年が経過した平成18年、教育を取り巻く環境の変化に対応するため、教育基本法の改正が行われました。新たな教育基本法には、「生涯学習の理念」や「家庭教育」、「幼児教育」、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」等の規定が加えられました。この改正に基づき、社会教育法を含む教育関係法についても、必要な見直しが行われ、各規定で内容の充実が図られました。

平成20年に中央教育審議会は「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」を答申し、「国民一人一人の生涯を通じた学習の支援」と「社会全体の教育力の向上」を目指すことで、学習成果の活用や新たな学習需要を生み出す「知の循環型社会の構築」を方向性として示しました。また、同答申では、個人の学習ニーズである「個人の要望」と、行政が市民に対してどのような学習をしてほしいかという「社会の要請」のバランスの視点を持つことが重要であるとされています。

同年、社会教育法、図書館法、博物館法の改正が行われ、また、「教育振興基本計画」が策定され、10年間を通じて目指すべき教育の姿が掲げられました。

その後、平成25年には「第2期教育振興基本計画」が策定され、「自立」「協働」「創造」の3つの理念の実現に向けた生涯学習社会の構築へ向けての方向性が示されました。

平成29年3月には、社会教育法が改正され、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」に関する規定の整備がなされました。さらに学習指導要領も改訂され、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、『連携・協働』しながら、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示されました。学習指導要領は、平成30年度から幼稚園において全面実施されるのを皮切りに、32年度には小学校、33年度には中学校、34年度には高等学校で順次全面実施されます。

#### 2 県の動向

平成17年に県は、「すべての県民が生涯を通して自ら学び、考え、行動し、他のすべての主体とともに県全体として一つにつながり合う」という理念の下、生涯学習基本構想「まなビジョンふくしま2020」を策定し、県民のライフステージを見通すとともに、生涯を通じた学びという側面を踏まえた将来方向を描き、各施策を展開してきました。

また、平成22年には、生涯学習基本構想の理念を継承しつつ、今後の生涯学習推進施策の方向性を示すことを目的として、生涯学習基本計画「夢まなびと創造プラン」を策定しました。

しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故により、本県の社会情勢は計画当初の想定から大きく変化したことから、平成25年に計画の見直しを行い、福島県総合計画「ふくしま新生プラン」に位置付けられている復興・再生の礎となる「人づくり」と「地域づくり」を、生涯学習を通じて推進することを目標としました。

## 第2節 いわき市の現状

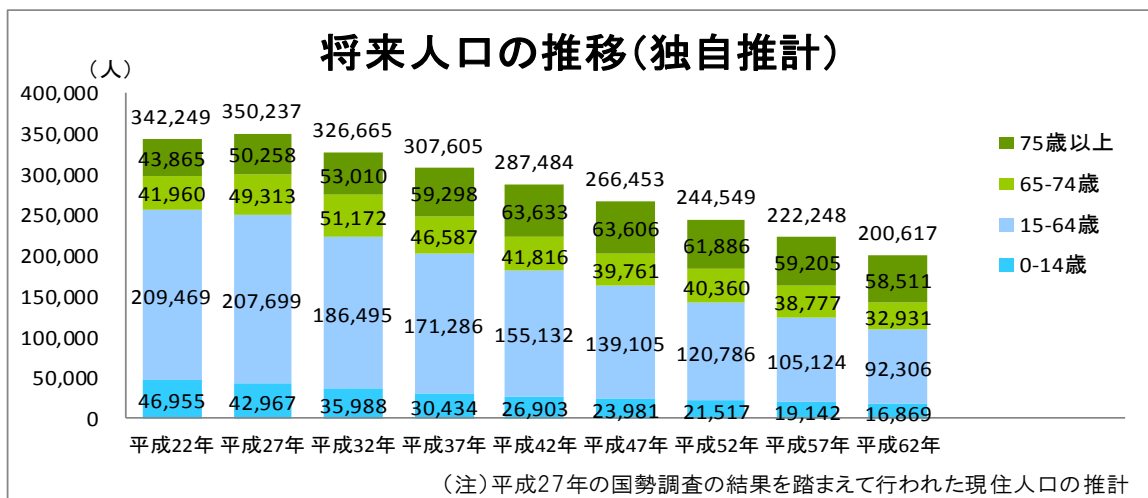
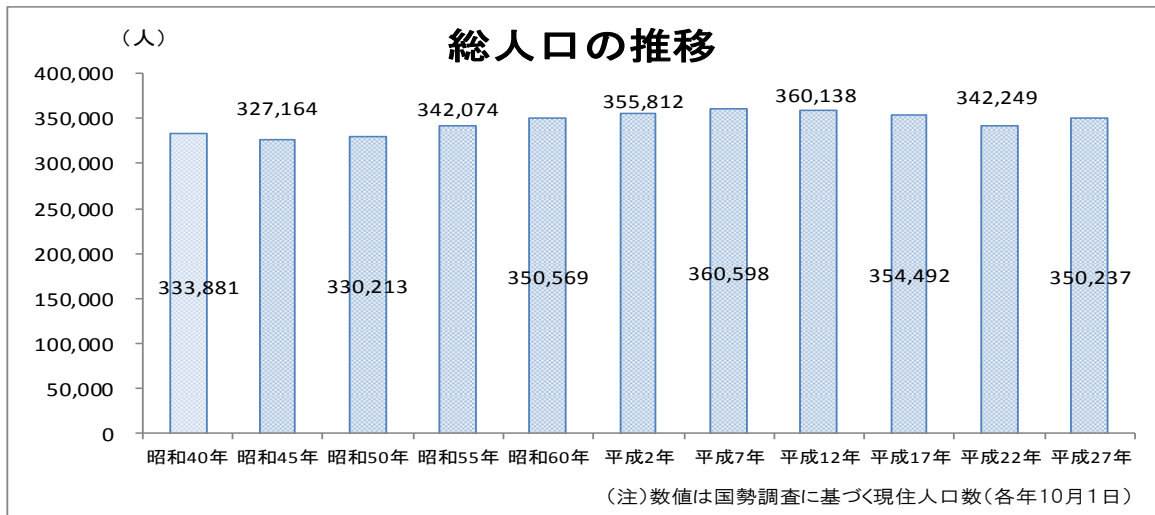
### 1 いわき市の社会状況

#### (1) いわき市の特徴

本市は、昭和41年10月1日に5市4町5村の大同合併により誕生した、広域・多核分散型の都市です。豊かな自然環境と温暖な気候風土に抱かれた本市は、福島県の東南端、茨城県と境を接する、広大な面積を持つまちで、東北地方有数の人口を擁しています。また、15の工業団地を有し、製造業を基幹の産業として、水産業や農林業、そして日本三古泉の一つに数えられる「いわき湯本温泉郷」や「いわき・ら・ら・ミュウ」などがある小名浜港エリアを中心とした観光サービス業など、多様な産業が活発に展開されています。

#### (2) 人口

本市の人口は、平成30年1月1日現在で345,209人となっています。平成10年の361,934人をピークに減少傾向にあり、年少人口が減少する一方で、高齢者人口が増加しており、少子高齢化が進んでいます。平成29年12月1日現在での本市の高齢化率<sup>3</sup>は29.3%となっており、全国平均の27.7%<sup>4</sup>と比較して2.4ポイント高い状況となっています。



<sup>3</sup> 【高齢化率】 総人口に占める高齢者（65歳以上）人口の割合

<sup>4</sup> 総務省統計局統計トピックスNo.103 統計から見た我が国の高齢者（65歳以上）-「敬老の日」にちなんで-より、平成29年9月15日時点での高齢化率

## 2 いわき市の生涯学習の現状

### (1) 本市の動向

本市においては、昭和62年11月のいわき市教育懇談会の提言を受け、生涯学習の推進を図るため、平成2年6月にいわき市生涯学習推進本部を設置し、平成3年3月にいわき市生涯学習基本構想を策定しました。この基本構想に基づき、平成4年3月に第一期いわき市生涯学習推進計画を策定してから、第五期計画に至るまで、“時”の社会状況等を踏まえながら、5年ごとの計画を策定してきました。生涯学習推進計画は、市事業のみならず、市民団体等の事業を位置付け・掲載することで、教育行政だけではなく、行政各部署や関係機関・団体が連携・協力を図りながら、生涯にわたり学びあう、そして豊かさと心がかようまちづくりの実現に向け、各種施策を積極的に展開しています。

また、平成28年2月には、本市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「いわき市教育大綱」を策定し、基本理念として「地域全体で人を育て、誇れるまち“いわき”をつくる」を掲げました。教育大綱では、市民と行政、地域の団体や企業等、地域を取り巻く様々な主体が一体となって、生涯を通して学ぶことができる生涯学習社会の形成を推進することを方針としました。

さらに、市では社会教育法の規定により、社会教育委員を設置しています。市社会教育委員の会議では、これまで教育委員会に対して提言や答申を行ってきました。直近では、平成26年11月に教育委員会から諮問を受け、平成28年3月に「高度・多様化する市民の学習ニーズに対応する生涯学習の今後のあり方について」を答申し、ネットワーク型生涯学習推進体制の構築や、市立公民館のあり方について意見を述べています。

#### 本市の生涯学習関係年表

昭和62年11月	いわき市教育懇談会提言
昭和63年9月	生涯学習推進準備会の設置
平成元年5月	生涯学習推進検討委員会の設置
平成2年4月	福島県生涯学習モデル市町村事業の指定 いわき市生涯学習推進本部設置要綱制定
平成2年6月	いわき市生涯学習推進本部の設置
平成3年3月	いわき市生涯学習基本構想策定
平成4年3月	第一期いわき市生涯学習推進計画策定（平成4年度～平成8年度）
平成8年10月	「輝くいわき、学びあい都市宣言」制定
平成9年3月	第二期いわき市生涯学習推進計画策定（平成9年度～平成13年度）
平成12年3月	いわき市生涯学習基本構想改訂
平成14年3月	第三期いわき市生涯学習推進計画策定（平成14年度～平成18年度）
平成19年3月	第四期いわき市生涯学習推進計画策定（平成19年度～平成23年度）
平成25年3月	第五期いわき市生涯学習推進計画策定（平成25年度～平成29年度）
平成28年2月	いわき市教育大綱策定
平成28年3月	社会教育委員の会議答申「高度・多様化する市民の学習ニーズに対応する生涯学習の今後のあり方について」

## (2) 市立公民館

本市には、市内各地に 36 の市立公民館が設置されています。各公民館では、市民講座による学習機会の提供をはじめ、地域団体やサークル活動の支援等、地域の実情に応じた社会教育の推進に努めています。

## (3) 生涯学習プラザ

市民の生涯学習活動や交流活動をより一層促進するため、子どもからお年寄りまで市民の誰もがいつでも気軽に利用でき、高度情報化社会にも対応した設備を有する生涯学習施設として、いわき市生涯学習プラザを平成 14 年 4 月に開館しました。

生涯学習プラザでは、①生涯学習に関する様々な情報を収集・発信、②市民の交流の場として憩いと潤いの場の提供、③高度で専門的な学習講座の提供、④学習サークルやボランティア・グループ等の活動の場の提供、⑤公民館、図書館などの生涯学習施設と連携した情報提供を行っています。

## (4) 市立図書館

本市には、平地区にあるいわき総合図書館のほか、小名浜図書館、勿来図書館、常磐図書館、内郷図書館及び四倉図書館があります。いわき総合図書館はいわき駅前 L A T O V 内に、そのほかの図書館は小名浜公民館、植田公民館、常磐公民館、内郷公民館及び四倉公民館にそれぞれ併設されています。

市立図書館は、高度化、多様化する市民の学習ニーズに対応するため、生涯学習の拠点施設として、資料及び情報の収集・提供に努めるとともに、読書活動を推進し、関係機関と連携・協力を図りながら、より質の高い図書館サービスを提供し、「また来たくなる、みんなの役に立つ図書館」づくりに努めています。

## (5) その他の社会教育・文化関係施設

音楽、演劇等の舞台芸術の会場として、いわき芸術文化交流館アリオス、文化センター（大ホール）及び各市民会館があります。

博物館等の施設として、いわき市立美術館、いわき市石炭・化石館、いわき市考古資料館、いわき市アンモナイトセンター、いわき市立草野心平記念文学館、いわき市暮らしの伝承郷、いわき市勿来関文学歴史館、いわき市海竜の里センター等があります。また、県の施設として、ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）があります。

また、青少年教育施設として、福島県いわき海浜自然の家があります。

## (6) スポーツ施設

本市では、生涯スポーツから競技スポーツにいたる様々なスポーツ活動の場として、地区体育館や市民運動場、上荒川公園、21 世紀の森公園、南の森スポーツパーク、新舞子多目的運動場などのスポーツ施設を整備してきました。

また、地域住民の身近なスポーツ活動の場として、公立小中学校のグラウンドや体育館などの学校体育施設を開放しています。

